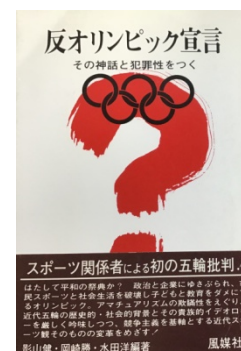


親子で読む！東京オリンピック！ただし、アンチ

写真の本を編者の一人、岡崎勝さんから送ってもらった。冒頭の岡崎さんの言葉から「スポーツは良いものだ」「オリンピックは素晴らしい」「体育は大切だ」ということを一度問い直したいというのがボクたちの想いです。この本を編集した「自由すぽ一つ研究所」は、40年間、スポーツや体育の競争主義、業績主義、商業主義をささやかに研究し、批判してきた体育会系の3人です。ボクたちの師・影山健は「オリンピックは喜びを管理する」ことだと批判しました。スポーツを押しつけられたくない人も、スポーツを楽しみたい人も、子どもたちといっしょにオリンピックを冷静に見つめ直してほしいのです。「誰もが素晴らしいというものには、一度立ちどまれ」なのです。



岡崎さんは名古屋市生まれの小学校教員。フリースクール「アーレの樹」理事、「お・は」編集人などをつとめている。岡崎さんとは、今から40年ほど前に「つながり」がある。写真下の1981年刊行『反オリンピック宣言』であり、若き岡崎さんは影山健・水田洋先生とともに編者であった。レポートに書いたが、私も本書に「オリンピックをめぐる名古屋市の財政・都市問題」を寄稿している。最近読み返しても、若く未熟ながらも、威勢のいい論文であり、編者の一人岡崎さんに感謝したい。



つい昔話になってしまったが、本書の目次(授業)を紹介しよう。
1時間め「オリンピック」って、なんだろう？ 2時間め どうなる？「東京オリンピック」 3時間め「スポーツ」に必要なことって？ 4時間め「障害」と「スポーツ」を考えよう

1から3時間めは、編者の岡崎さん、土井峻介さん(元中学校体育教員)、山本芳幹さん(フリーライター)が、20の質問に簡潔に回答し、「もっとくわしく知りたい人へ！」と解説を加えている。4時間めは小児科医で東大准教授の熊谷晋一郎さんが「障害者とトップアスリートに共通する生きづらさ—レクリエーションスポーツの可能性」を寄稿、小児科医の山田真さんと岡崎さんが学校生活とパラリンピックに見る「平等」「公正」って？と題して対談している。

本書は幻の名古屋オリンピックのときに刊行された『反オリンピック宣言』に比べて、とにかく読みやすく編集されている。日ごろからオリンピックやパラリンピックに疑問を感じてきた私にとって、納得することが多かった。「親子で読む！」とあるが、「オリ・パラ」やスポーツに関心のある人にも一読を勧めたい本である。

(2019年3月4日)